

特42

456

訂正
親世流謡別巻
八番

一角仙人

15

早知

一角仙入

是ハ天竺波羅奈國ノ帝王



は下也。梅子此水け傍み

あり。鹿の胎心おとるお

類より額より角より生

る。いふはきよ信くその名は一角

仙とありく。つらみ細方と龍神と

減とあしきくは神浦とあり
 諸竜をとりしむ岩屋の内を封
 して是の同敷日雨くすの津門
 此より秋とありむるは津方便と
 由しむるは夏の持池とありむる
 らくすむるは養人の日ありむる
 きく根入りしむるは津方便と

のありむるは養人の日ありむる
 先よりしむるは津方便と
 日ありむるは養人の日ありむる
 又は津方便とありむるは津方便と
 津方便とありむるは津方便と
 入るも破るもありむるは津方便と
 雨よりしむるは津方便と

秋の風もさびしきまじりの夜
霧の国もさびしきまじりの夜
ぬき出しのまじりもさびしきまじりの夜
向後さびしきまじりの夜
の程もさびしきまじりの夜
休もさびしきまじりの夜
吹もさびしきまじりの夜

寺結白たつ庵あり。若彼仙境
まやかしむるに佛也。由
由とてあつちを思ひ
健一清乃水所初め。鼎よハ青山
乃雲とて思ふ曲あり。杖
杖峯青あり。杖もさびしき
煤の氣文ハ面白く。此庵あり

早月

唯今思ひ出でての梅の取及たる一角仙
人より言ふる早月は此の是社一角の
中仙より言ふべく面を言ふべき
事言は振人の雅人の義友宮女
乃秋桂の代黒羅維後ときめよの
と及みえぬをいふ言ひのま
し面を言ふ早月は申さるべく。猶味の

たる振人より。振人のまきの慰
酒を持ていふ。いふ言ひの
名仙境よりねの言ひの言ひ
まきく桂の言ひの言ひ。幸し
老い家の世言あり酒を引る事
由早月を言ひの言ひの言ひ。言
と清言の言ひの言ひ。言ひの言ひ

一角
 七編
 天保十一年庚子歲孟春改正再板
 皇都三條通御幸町西江入町
 山本長兵衛
 右之本者觀世大夫織部以章句
 真本令放行畢
 明治廿六年三月廿九日別製本御届
 東京市麹町區飯田町四丁目吉書寫
 宮内省御用達
 訂正者 觀世清廉
 板權 所有
 發行所 京都市上京區三條通御幸町西江入町
 發行所 山本長兵衛
 常之助
 天保十一年庚子歲孟春改正再板
 皇都三條通御幸町西江入町
 山本長兵衛
 右之本者觀世大夫織部以章句
 真本令放行畢
 明治廿六年三月廿九日別製本御届
 東京市麹町區飯田町四丁目吉書寫
 宮内省御用達
 訂正者 觀世清廉
 板權 所有
 發行所 京都市上京區三條通御幸町西江入町
 發行所 山本長兵衛
 常之助

板權 所有

明治廿六年二月十七日印刷
 明治廿六年二月同日訂正出版
 明治廿六年三月廿九日別製本御届

訂正者 觀世清廉
 東京市麹町區飯田町四丁目吉書寫
 宮内省御用達

發行所 京都市上京區三條通御幸町西江入町
 發行所 山本長兵衛
 常之助



